

科目名	哲学概論Ⅰ		担当教員	小井沼 広嗣	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SPSE201
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>西洋哲学に関する教養的知識を習得すること、ならびに哲学的なものの見方や考え方を身につけることを到達目標とします。よって、以下の3点をテーマに定めます。</p> <p>(1) 西洋哲学における主要な学説に関する知識を習得し、適切に説明することができる。</p> <p>(2) 今日の常識的な世界像や自分の習慣的な考え方をいったん取り払い、物事をできるかぎり根本から問い直し、考え、表現することができる。</p> <p>(3) 哲学的思考法を体得し、自分自身や人間一般の生のあり様をよりよく理解するうえでの技法として活用することができる。</p>				
授業の概要	<p>哲学というと、実生活には役立たず、答えもでないような問いを、難解な言葉を使って延々と考えているだけのもの、というイメージがあるかもしれません。しかし哲学の核心は、だれもが納得できるような深く力強い考え方を生み出そうという努力にあります。その営みは長い歴史をかけてゆっくりと、しかし確実に、優れた哲学者たちによって積み上げられてきました。この授業では古代から近代までの主要な西洋哲学者を取り上げ、その思想のもっとも重要なエッセンスを学びます。また、哲学的な思考法をみずから実践し、体得するために、フッサールという哲学者が考案した「本質観取」という方法を応用したグループワークを行う機会ももちまます。</p>				

授業計画	
第1回	「イントロダクション」：《哲学は何を、どのように問題にするのか?》という問いを出発点として、哲学という営みの特質、哲学と宗教の関係、哲学と科学の関係について学ぶ。
第2回	「西洋哲学の誕生（古代1）」：《万物の根源とは何か?》という問いを出発点として、合理的な世界説明を試みたイオニア自然学派やピュタゴラスなどの哲学者の思想について学び、それがもつ意義を検討する。
第3回	「ソクラテス（古代2）」：《よく生きることとはどういうことか?》という問いを出発点として、「魂の世話」の重要性を唱えたソクラテスの思想について学び、それがもつ意義を検討する。
第4回	「プラトン（古代3）」：《なぜ私たちは美しいものに惹かれるのか?》という問いを出発点として、プラトンのイデア論や想起説について学び、それがもつ意義を検討する。
第5回	「アリストテレス（古代4）」：《万物の秩序とはどのようなものか?》という問いを出発点として、アリストテレスの四原因説や古代・中世の目的論的世界像について学び、それがもつ意義を検討する。
第6回	「スコトゥスとオッカム（中世）」：《普遍的なものとはどのような関係にあるのか?》という問いを出発点として、普遍的なものの実在性をめぐるスコトゥスとオッカムの議論について学び、それがもつ意義を検討する。
第7回	「本質観取とはなにか?／グループワーク(1) 情動の本質を考える」：グループワークをするさいの方法となる「本質観取」について説明する。そのうえで、「死の恐怖」ならびに「嫉妬」をテーマとして各グループで議論を行い、それらの本質について検討する。
第8回	「グループワーク(2) 情動の本質を考える（続き）」：前回に引き続き、「嫉妬」をテーマとして各グループで議論を行い、その本質に関する考察を掘り下げる。
第9回	「デカルト（近代1）」：《確かな知識の土台とはなにか?》という問いを出発点として、「われ思う、ゆえにわれ在り（コギト・エルゴ・スム）」というデカルトの命題の意味について学び、それがもつ意義を検討する。
第10回	「スピノザ（近代2）」：《合理的な世界像とはどのようなものか?》という問いを出発点として、スピノザが打ち立てた合理論の哲学について学び、それがもつ意義を検討する。
第11回	「ロックとヒューム（近代3）」：《私たちはどのように知識を形成するのか?》という問いを出発点として、ロックとヒュームが打ち立てた経験論の哲学について学び、それがもつ意義を検討する。
第12回	「カント（近代4）」：《私たちが知りえること、知りえないこととはなにか?》という問いを出発点として、カントが打ち立てた批判哲学について学び、それがもつ意義を検討する。
第13回	「ヘーゲル（近代5）」：《人間の自我はどのような成り立ちをしており、どのように変容していくのか?》という問いを出発点として、ヘーゲルの説く「意識の教養形成の過程」について学び、それがもつ意義を検討する。
第14回	「グループワーク(3) 価値の本質を考える」：「自由」をテーマとして各グループで議論を行い、その本質について検討する。

第15回	「グループワーク(4) 価値の本質を考える／全体のまとめ」前回に引き続き、「自由」をテーマとして各グループで議論し、その本質に関する考察を掘り下げる。グループワークの最終的な総括を行うとともに、哲学や哲学的思考法のもつ意義についても総括する。
------	---

事前学修	2時間	哲学者の思想を取り上げる回にさいしては毎回教科書から予習範囲を指定するか、予習用のプリント資料を配布するので、かならず事前に読んできた上で授業に臨んでください。また、グループワークの回にさいしても事前課題を出すので、それを行った上でグループワークに臨んでください。
事後学修	2時間	授業後には毎回、授業感想課題を出します（クラスプロファイルより提出）。教科書や配布資料をもとに復習し、自分なりに考えたことや疑問点などを授業感想課題に書いてください。
フィードバックの方法	提出してもらった授業感想課題については翌週の授業でフィードバックを行います。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	42%	
上記以外の試験・平常点評価	58%	各回の授業感想課題、ミニテスト、事前課題の提出
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『高校生のための哲学・思想入門』	竹田青嗣・西研 編著	筑摩書房	4480917241	「高校生のための」と題していますが、大学生の皆さんにも十分読み応えのあるテキストです。
参考資料	教科書以外の入門書や解説書、個別テーマに関する文献については授業内で適宜紹介します。			

科目名	哲学概論Ⅱ		担当教員	安部 日珠沙	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SPE402
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>(1) 代表的な哲学者達の思想の趣旨をテキストから読み取り、理解することができるようになる。</p> <p>(2) 様々な哲学的概念について、しっかりとした根拠をもって、自身の言葉で適切に表現したり説明したりすることができるようになる。</p> <p>(3) 哲学的思考・議論能力が現代においてどのような役割を果たしうるのかを検討することができるようになる。</p>				
授業の概要	<p>本授業では、「哲学概論Ⅰ」の学修を踏まえつつ、西洋哲学史において特に著名かつ影響力のある哲学者達の思想を、各々のテキストから改めて紐解いていくことで、更なる理解の深化を図る。その上で、ディスカッション等を通じて、自ら哲学的に思考しそれを適切に発信するための資質や能力を培っていくことを目指す。</p>				

授業計画	
第1回	ガイダンス：本授業の進め方の説明
第2回	人間とは何か：子どもは人間であるか否か
第3回	ソクラテスの思想 (1) 『ソクラテスの弁明』より
第4回	ソクラテスの思想 (2) ディスカッション
第5回	ソクラテスの思想 (3) 発表・質疑応答
第6回	プラトンの思想 (1) アイデア論
第7回	プラトンの思想 (2) ディスカッション
第8回	プラトンの思想 (3) 発表・質疑応答
第9回	アリストテレスの思想 (1) 『形而上学』より
第10回	アリストテレスの思想 (2) ディスカッション
第11回	アリストテレスの思想 (3) 発表・質疑応答
第12回	カントの思想 (1) 物自体
第13回	カントの思想 (2) ディスカッション
第14回	カントの思想 (3) 発表・質疑応答
第15回	まとめ：振り返りと自分の意見の明確化

事前学修	2時間	自分の意見を積極的に表明し、他の学生と活発にディスカッションするために、授業テーマ（キーワード）について、文献やインターネット等を用いて調べたり、授業に持ち込む資料を収集したりしておく。
事後学修	2時間	ディスカッション、発表、質疑応答などを通じて得られた知識や見解などを踏まえ、授業テーマに関する自身の意見や考えをブラッシュアップする。
フィードバックの方法	<p>(1) リアクションペーパーを通じて寄せられた意見や質問等については、次回の授業開始時に回答・説明を行う。</p> <p>(2) 第15回目の授業課題については、羽島教務課を通じて返却を行う（詳細は後日連絡）。</p>	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
上記以外の試験・平常点評価	100%	追加補足事項に記入。
補足事項	(1) 授業への参加態度等 (15点)、発言および他者の意見への傾聴などディスカッション・発表・質疑応答への積極性 (60点)、選択テーマに関する論述 (25点)。	

(2) 毎回リアクションペーパーを配布するので、授業内容に関する疑問・意見・感想等を記して提出すること。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で適宜コメントする（出席票として扱うため、未提出の場合は欠席扱いとする）。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	必要に応じて適宜授業内で紹介する。			